

平成27年度第2回長井市振興審議会 議事録

開催日時：平成27年8月26日(水) 15時00分 ～ 16時50分

開催場所：交流センターふらり 視聴覚室

出席者：20名(委員14名、事務局6名)

■振興審議会委員 北川忠明委員、荒生正徳委員、渡部秀一委員、板垣洋一委員、高橋郁子委員、加藤弘二委員、勝見裕子委員、勝見英一朗委員、齋藤道郎委員、梅津雄治委員、小林美和子委員、梅村律子委員、中井晃委員、長沼真知子委員
(出席14名、欠席4名)

■事務局 遠藤健司副市長、鈴木一則総務参事
総合政策課 竹田利弘課長、桐生芳弘主幹、白幡史生主査、今野透係長

傍聴者：0名

【次第】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(新任委員)
- 3 あいさつ
- 4 報告
(1)地方創生に関するこれまでの経過(資料1)
- 5 協議
(1)地方創生の取り組みについて
・長井市地方人口ビジョン案(資料2・3)
・長井市総合戦略策定案(資料4・5)
(3)その他
- 6 その他
- 7 閉会

【議事録】

- 1 開会
- 2 長井市振興審議会委員の任命(新任委員)

副市長から新任委員1名へ委嘱状を交付した。

- 3 あいさつ

○北川忠明委員(会長)

長井市における地方創生の取り組みについては、市役所の総合戦略本部で、精力的に検討されてきています。今日は、長井市人口ビジョン案と長井市総合戦略案について、事務局から説明いただき、委員の皆様から意見をいただきたいと思います。

数日前の報道で、「ふるさと住民票」制度が提唱されていました。たとえば長井市出身者で首都圏等にいてる人に二番目の住民票として交付するというものです。趣旨は、まちづくりに参加してもらおうということです。いくつかの市町村で構想しているようです。長井市でも「ながいファン倶楽部」制度がありますので、似た取り組みだろうと思います。地方創生のためにいろんなアイデアを考えるということは必要だろうと思います。

今日、議論いただく人口ビジョンや総合戦略にもいろんなアイデアが盛り込まれているようです。

委員の皆様には、活発にご議論いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○遠藤健司事務局長(副市長)

今日は、長井市の地方創生の取り組みについてご意見をいただくものです。市長からも委員の皆様から意見をいただくよう諮問させていただいています。どうか忌憚のない意見を頂戴したいと思います。

全国の市町村が人口ビジョンと総合戦略づくりに取り組んでいますが、県内では長井市が一番早いペースで進んでいます。これまで庁内の本部会議を5回、有識者による会議を2回、そして、市民との意見交換会やアイデア公募などを進めてきました。今日お示しする内容は、非常に幅が広く、欲張りな内容となっています。しかし、そのくらいやろうとしなければ、地方の再生はないだろうと考えています。実効性を高めるに必要な視点、スピード、優先順位等の観点からのご意見をいただければと思います。

本日は、たいへんありがとうございます。

4 報 告

(1)地方創生に関するこれまでの経過

資料1に基づき事務局から説明を行った。

5 協 議 [議長＝北川会長]

(1)地方創生の取り組みについて

①長井市人口ビジョン案

資料2・3に基づき事務局から説明を行いました。

(北川会長)

ただいま事務局から説明があった長井市人口ビジョン案について、ご意見やご質問はありますか。

(委員)

合計特殊出生率は人口を維持していける値ということですが、出生率が高いということは、それだけ多くの出生数が必要になるということになります。そうだとすれば、出生率は小さい方が望ましいということでしょうか。

つまり、どういう状況を目指すかといった時に、2.07を目指すという状況を作らない方が望ましい状況なのではないでしょうか。

(事務局)

長期的に見て人口減少が進んでいくときに、人口を維持していこうとすると合計特殊出生率2.07が必要になります。そういう方向に向かっていかないといけないと思っています。

(委員)

子どもの出生は98%が夫婦からといわれています。結婚のためには雇用の安定が必要ですが、たとえば30代男性の年収の推移がどのようになっているか、といったことは話題にはならなかったのでしょうか。また、長井市の就業者の年収変化はどうなっているのかなどについてもどうでしょうか。

(事務局)

これまでの会議などでは年収に関しての意見は出ていませんでした。

(委員)

なぜ年収について確認したかという点、婚活サポート委員会をしていると、結婚したくてもできないような社会環境になっていると感じます。そのため、たとえば30代の年収の変化なども把握しておく必要があるのではないかと思います。

(事務局)

年収と結婚や出産の関係はあると思われますが、今回は掘り下げて調査はしていませんでした。国が策定した人口に関する長期ビジョンにおいて、非正規雇用の拡大など雇用の不安定さが婚姻率の低下の要因であるという分析がなされています。長井市においてもそれは同様だろうと考えて、個別の調査はしていないという状況です。

(委員)

出生率2.07を達成した場合も、その後に課題があります。子どもが成長して、市外へ出て行った後に、帰ってこられる雇用環境があるのかどうかということです。その就職等の手当てはどのように考えていますか。

(事務局)

人口ビジョンで示したあるべき姿に向かっていくために取り組む具体的な施策については、総合戦略で記載していく形となります。雇用対策関係ですと、現在考えているのは次の点です。

一つは、現在市内に立地する企業への支援として、設備投資などへの助成を継続実施することです。二つ目が、首都圏等にある企業の第二工場のような形での企業誘致です。

また、大学生の就職支援という点では、山形大学等と連携して市内企業の求人機会を確保していくことや、大学生が長井市や県内で就職する際に、奨学金の返還への助成をする制度を山形県と連携して構築していくことを盛り込んでいきます。

(委員)

世代ごとの収入は調べるのは大変かもしれませんが、可能であればあった方がよいと思います。施策として、婚活支援や雇用対策をしていくことを戦略として示すのであれば、長井市の男性の未婚率が上がってきているのは、収入との因果関係があるのかどうかを明らかにしておいたよいと思います。

人口構成で男性より女性の方が少なくなっている理由は検証されたのでしょうか。

合計特殊出生率が平成7年に上がって、その後に平成17年に下がっていて、全国の傾向とは違う動きをしていますが、この理由は分かっているのでしょうか。

人口ビジョンの資料3の5ページにある図表6を見ると、地区ごとに人口減少の形が違ってくるが見えるが、このそれぞれの要因については分かっているのでしょうか。

(事務局)

これらの検証については出来ていないものもあるため、今後時間の許す限り分析に努めます。

(委員)

結婚しても離婚する人がだんだん増えてきているといわれていますが、子どもが生まれたとしてもその後の生活があるわけです。そのサポートなどについてはどのように考えているのでしょうか。

「女性が活躍する」「女性が多くの子どもを育てる」といった文言がビジョンとして書かれていますが、女性の働く割合が多いなかでさらに女性が仕事場で活躍すると収入が減少して婚姻率

が下がっているといわれている男性の活躍の場を奪ってしまうのではないかと思います。女性だけではなく、「男性の活躍」についても触れたほうが良いのではないかと思います。

(事務局)

国でも女性の活躍はキーワードとして掲げています。長井市でも、子どもを育てながら働きやすい環境を企業に協力を要請しながら作っていく必要があるだろうと考えています。

(北川会長)

既に、人口ビジョンに留まらず総合戦略にも踏み込んだ意見をいただいていますので、次の「②長井市総合戦略案」に進んでいきたいと思っています。

②長井市総合戦略案

資料4・5に基づき事務局から説明を行いました。

(北川会長)

ただいま事務局から説明があった長井市総合戦略案について、ご意見やご質問はありますか。

(委員)

人口減少対策のためには雇用が大事になってくるわけですが、今の戦略では、現在の中小企業の活性化をどのように図っていくのかが見えてきません。むしろ、今年度には市役所の組織体制の見直しで工業振興関係は人員が削減されています。もっと抜本的な改善を施さないといけないと思います。

(委員)

魅力ある農業という部分で、新規就農に対して手厚く施策を準備しても、農業は出口の部分が問題となります。農業者だけでなく、商工業者に対して地元の農産物を扱いやすくするとか加工する余地を残すといったという部分に対して支援をする必要があると思います。また、農産物のブランド化をしても、新規就農をしても、その先がないという問題があると思います。

(委員)

資料3の4ページの図表6で「進学等で流出した20代の人に戻ってこない」と書かれています。この人たちが戻ってこられるようにしないと人口は増えていかないわけです。そのためには、企業に対する支援もしないといけないと思います。企業誘致という時の税制優遇措置などを考えていく必要があります。人口減少対策のための雇用と進学者が戻ってくる施策を講じていかなければなりません。

(委員)

子どもたちの意向が反映されていないのではないかと思います。高校生たちにとって長井は遊ぶ場所がない。遊ぶ場所がなければ、若者は魅力を感じないし、戻ってきたいと思わないのではないのでしょうか。そこに行けばいろんな人と交流できるというような場所が必要だと思います。例えばボーリング場や映画館の娯楽施設など、若者が集まれる場所があれば、婚活事業などをしなくても交流できるのではないのでしょうか。そういう部分も盛り込んでいくことをお願いしたいと思います。

(委員)

現在、農業との兼業で建設関係にも関わっていますが、上山市はスーパーなどの誘致に積極的

で人口が増えていっていると言われています。天童や東根も人口が増加しています。長井市はチャンス逃しています。企業の人の話で、あの時なら長井市に出店していたのだけど、という話がありました。その時に、市役所は農地や環境の行政手続き関係で消極的だったということでした。時代による違いもあると思いますが、これからは許認可関係を若者が担当して、若い人の感覚で前向きな対応をできるようにしていく必要があると思います。そして、上山市のように店舗等を積極的に受け入れていくということをしないといけないでしょう。総合戦略に言葉として盛り込むわけにはいかないかもしれませんが、行政は年齢の高い人の考え方で判断するのではなく、そこから脱皮して若者の目線で前向きに進めていってほしいと思います。

農業については、農家の後継ぎが新たな担い手として規模拡大をしようとする時に、農作業で忙しくなりすぎて、視察や研修などができなくなります。行政でそういう機会をぜひ作ってほしいと思います。農業は無くすわけにはいきませんので、若者たちがどういう農業を作っていけるのかという点について支援いただきながら、取り組んでいきたいと考えています。

(委員)

若者が帰ってくるために山形大学との連携を掲げられていましたが、より問題なのは県外の大学へ進学した人のUターンではないでしょうか。県外へ行った学生に、産業などの地元の魅力を伝えていくことが必要だと思います。情報を伝えていく手法を考えなくてはなりませんが、これには高校との連携が考えられます。

また、教育の魅力を親世代にどう伝えていくのかという点も重要です。環境整備としてハードも必要ですが、長井市の教育の成果を広報していく必要があります。たとえば、全国学力調査の結果で、長井市の特長や推移をわかるように示してアピールすることが考えられます。学力調査と共に実施されている学習状況についてのアンケート調査をもとにすれば、長井市の子どものどういう生活をしているかが見えてくるし、それに対する対策も考えられます。そういったことを見せていけば教育の魅力を伝えられるのではないかと思います。

(委員)

企業誘致もそうですが、大学や大学の一部の誘致をして、外に行く若者を減らして、外から来る若者を増やせるのではないのでしょうか。若者は自然や田舎が好きな人もいますが、やはり都会への憧れや楽しさを感じる人は多いと思います。都会に出た人が地元のことを考えるのは、就職や家族をもった時くらいです。その選択の時に長井市のことを思ってもらえるようにするために、子どものうちからの教育をしていけば、帰巢本能のように帰ってくる人も自然と増えるだろうと思います。

(委員)

お盆の際に同窓会をしましたが、同級生60人のうち半分くらいが長井市に住んでいない状況にあり、人口減少を痛感しました。大学に進学して、今はシステムエンジニアをしている友人がいますが、将来は長井市に帰って起業したいという人もいます。今の時代はITに向かっていますが、長井市はWi-Fi環境が弱いと思います。これからはインバウンドによる外国人の観光客も増えていくと思います。南陽市では山形県国際経済振興機構と連携して英語版や中国版のパンフレットを作ったり、海外にPRに行ったりして頑張っています。インバウンドを考えると、Wi-Fi環境の整備が必要であり、それはIT関係の起業にもつながるようになるだろうと思います。海外との取引では英語で発信していますが、長井市の英語版のパンフレットがあれば一緒にPRできますので、そうしてもらえると助かります。

(委員)

前回の会議の後に、一緒に仕事をしている若い未婚女性二人と話をして結婚について聞いてみたところ、彼女たちはここで結婚して生きていきたいと思っていないわけではない、ということでした。良いと思える仕事や素敵な男性とめぐり合えれば、長井で暮らし続けたいと思ってい

ます。

息子が成人式で同級生と久しぶりに会って、やはり地元は良いなと言っていました。戻ってきたくないわけではないので、自分が働くことができる場所や人のつながりを魅力に感じて戻ってくる努力をすることもできると思いますので、大学生は長井に戻ってこないと断定しなくてもいいのかと思います。

(委員)

長井市にいる若者が残っている理由として「黒獅子があるから」というケースが結構あります。子どもの時から黒獅子に参加していて黒獅子が大好きだから長井に住み続けるという男性や、黒獅子が好きだから長井の男性と結婚した女性もいます。

今、長井小学校や平野小学校では、子どもたちが黒獅子を教わり、地元のお祭りや黒獅子祭りに参加しています。こういう場があるのはとても良いことだなと思います。こうした子どものうちから黒獅子に親しむことについて、もっと活躍の場を与えたり、支援したりするといったことも人口減少対策に効果があるかもしれないと思います。

また、先ほど女性の活躍について話がありましたが、長井の女性には、長井に住み続けるために市外から結婚相手を連れてくる人もいます。むしろ女性の活躍や結婚の話の前に、まず魅力ある男性が必要だと思います。それには男性の魅力を引き出す企画などが必要ではないでしょうか。

(委員)

子どもや教育について、総合戦略案に婚活支援事業が記載してありますが、ここはもっと具体的に記載していく必要があると思います。婚活事業に取り組んできて、成婚件数は6年で2組です。一方で南陽市では7年で22組ということです。南陽市は結婚推進係として正職員を配置して力を入れています。長井市においてももっと根本的なやり方も含めて、具体的にどう取り組むかを考えていく必要があります。例えば、未婚者への婚活サポートを市民挙げて取り組むなどの方法も考えられますが、そのように具体的な方法を考えていかないと成果は挙げられないだろうと思います。総合戦略により具体的に記載できるよう検討をお願いします。

(委員)

資料3の17ページにある市民アンケート調査の結果で、転居したい理由として「買い物などに不便」という項目がありますが、ここの回答率が女性よりも男性の方が高くなっているのが不思議だなと思います。なぜかを分析するのは難しいかもしれませんが、気になるところです。

(北川会長)

その他のご意見等はございますか。ご意見等がないようですので、ただいま委員の皆様からいただいたご意見を整理させていただいて、私から答申として市長へ報告したいと思います。

(3) その他

(北川会長)

その他の協議事項について、何かございますか。(なし)

それではこれで協議は終了いたします。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

7 その他

次回の開催について、事務局から説明を行いました。

8 閉 会

(16:50)

以上